

## 1. 調査報告概要表

作成日平成19年 8月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170503536		
法人名	有限会社 アイコム		
事業所名	グループホーム などわーる・真心		
所在地 (電話番号)	札幌市豊平区西岡4条1丁目5番28号 (電話) 011-850-0888		
評価機関名	特定非営利活動法人 アイケア・ネット		
所在地	札幌市中央区南2条東1丁目1番地12		
訪問調査日	平成19年8月9日	評価確定日	平成19年8月30日

## 【情報提供票より】(平成19年 7月 1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成17年10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算	11.5人

## (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造サイディング 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	34,500 円
敷金	有(70,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 1,300 円		

## (4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	16名	男性	5名	女性	11名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	64歳	最高	95歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	札幌南青洲病院、月寒東内科クリニック、さくら歯科医科クリニック
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街に建てられており、開設時から、地域との積極的な関わりをもっていること等から、地域住民との交流が盛んに行われている。居間には畳敷きのスペースを作るなど、利用者が各自好みの場所で過ごせるようになっている。1Fのテラスデッキは、程よく周囲から遮蔽され、日光浴や体操に利用されて、居心地の良いスペースとなっている。医療・介護分野で長年の経験を持つ法人代表の理念を理解し、管理者や職員はスキルアップに意欲的である。外出の機会を多くもっていたり、プランターでの野菜栽培など利用者の楽しみごとを充実させるよう取り組みがなされている。かかりつけ医との連携もとれており、緊急時の対応などがスムーズに行われるような体制作りがなされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では立ち寄りやすい玄関周りへの配慮、各居室の場所間違いの防止策、時の見当識への配慮などが改善点として取り上げられたが、玄関に花を植えたプランターを置く、認識しやすい居室の目印等、今回の評価では改善されていた。ただし、個別記録の様式に関しては現在も模索中でした。又、運営推進会議で報告がなされ、意見交換がなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員も自己評価にかかわり、管理者も職員も積極的な取り組みが行われており、よりよいサービスの質の向上に向けた取り組みが行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現状で2回の運営推進会議が行われており、第1回目の議題としては外部評価についての改善報告、家族や地域住民との質疑応答。第2回ではレクリエーションの意義について、第1回の会議よりも活発な、家族や地域住民との質疑応答が行われている。地域の住民の参加者も多く、グループホームとはどのような場所かの理解を深める助けとなっているようです。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議などを活用し家族が意見や要望を述べる機会が設けられている。ホーム便りを定期的に発行する体制が整えられ、利用者の日々の状況が家族により伝わるよう取り組みがなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の住民とは、利用者の散歩や買物の際に挨拶あっていたり、地域の行事に参加している。法人代表が積極的に地域の会合に参加していることも地域交流に繋がっている。日常的に地域住民との交流をもっていることから、グループホームの避難訓練の際にも地域住民の協力が得られたり、運営推進会議への参加に繋がっている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より掲げている運営理念を実践し、地域社会の一員として信頼されるグループホームとなるために、法人代表をはじめ、管理者と職員は日々地域との交流をもっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は常に運営理念を意識し、日々の介護に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人代表が積極的に地域の会合に参加したり、利用者が地域の行事に参加しながら地域との交流に勤めている。また、日常の外出時に挨拶をし合っていることも地域交流となっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人代表をはじめ、管理者と職員は評価の意義を理解し、日々改善に向けて取り組んでいる。前回の外部評価結果も運営推進会議で報告され、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設してから2回行われている運営推進会議では、外部評価の結果報告や、グループホームに対する質疑応答がなされており、議事録も整備されている。また、2回目には地域住民の参加も増えている。	○	現状も、多くの人に参加してもらえよう日程調整に配慮がなされているが、今後もより多くの人達に参加してもらい意見の交換を行い、サービスの向上に繋げていくことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携をとり、サービスの質の向上に取り組んでいる。管理者会議も参加し、情報交換に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や電話又は文書などを利用し、利用者の状況報告がなされている。また、今後定期的なホーム便りが発行されることになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には気軽に相談できる雰囲気作りを行っている。家族が運営推進会議にも参加し、質問や意見を述べている。苦情窓口に関しても説明が行われている。	○	家族がより積極的に意見等を述べられるような関係作りをしていくことが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職の際には、利用者への影響が抑えられるよう配慮がなされている。開設時より管理者の変更がないため、継続した支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が行われており、職員のスキルアップが図られている。外部研修にも職員が積極的に参加できるようになっており、受講内容も職員で共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議や外部研修等で地域の同業者と交流の機会を多く持ち、ネットワーク作りに取り組んでいる。	○	相互訪問などを行い、地域の同業者とのネットワーク作りを強化し、更なるサービスの向上に努めていただきたい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、利用者や家族がホームの見学を行い、十分な検討が行われている。また、入居後も早くなじめるように支援が行われている。家族も来訪しやすい雰囲気となっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に作業を行い、相互に支えあう関係を気づいている。また、利用者が得てきた知識を講義してもらおう場を設けるなどの計画がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望に応えられるような環境づくりがなされており、外出の機会を多く設けたり、教会のミサへの外出支援など利用者の生活を継続できるような利用者本位の支援がなされている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	持ち回りの担当制となっており、職員の気づきや情報が介護計画に反映するようになっている。介護計画の作成には、より良く暮らすために利用者や家族の意見や要望が採り入れられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しが行われている。利用者の状態が変化した場合は、カンファレンスでの意見交換や家族に相談するなどして、現状に即した介護計画の見直しがなされている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に沿って、散歩や買物の外出支援を行ったり、その都度状況に合わせた柔軟な対応がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期的な訪問診療が行われており、利用者の急変時も、かかりつけ医が対応する体制が整えられている。また、看護職員がおり、医療機関や医師などとの連絡調整をおこなっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では重度化した場合や終末期の利用者の対応は難しいとのことだが、方向性は利用者や家族、かかりつけ医と連携し決定できるよう取り組みがなされている。	○	終末期での利用を希望され、ホームでの生活が可能な場合は、受け入れのできる体制作りが望まれます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーを尊重したサービスに努めている。居室で入り口にはカーテンをつけるなどしてプライバシーの保護に努めている。個人情報も慎重な取り扱いがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に合わせてレクリエーションを行うなど、利用者の希望に沿った支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が楽しんで食事が出るよう、食事の下ごしらえや後片付けが行われている。また、外食や出前の機会がもたれるなど、利用者の好みをも把握した支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態や希望にあわせ、ゆっくり入浴できるように支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者や家族から個々の生活歴を聞き取りし、役割をもち張り合いのある生活を過ごせるよう支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごすことがないよう、散歩や買物に行く等日々の外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はしておらず、利用者の外出傾向の把握・察知がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民に協力を得た避難訓練が行われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートを用いて利用者の食事や水分量を把握している。利用者により食事の盛り方を工夫した食事の支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的な玄関で入り口にはプランターに花が植えられている。1Fテラスデッキで日光浴や体操をしたり、野菜を育てたりすることができ、居間にも畳敷きのスペースがあるなど利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれており、安心して過ごせる居心地の良い空間となっている。		

※  は、重点項目。